区内のサロン活動を考える
－ふれあい･いきいきサロン交流会を開催しました－

昨年11月19日、厚別区民センターを会場に区内で活動しているサロン関係者と、福祉関係者の交流を目的に「ふれあい・いきいきサロン交流会」を開催しました。

厚別区では初めての交流会でしたが、区内で活動しているサロン関係者や福祉関係者65名が参加され、楽笑体操を参加者全員で体験したのち、お互いのサロンの活動状況について情報交換を行いました。

また、参加者にご協力いただいたアンケートからは、「サロン参加者が少ない」「活動を支えるボランティアの確保が大変」「活動メニューがマンネリ化している」といった課題が挙げられていました。

本会では課題解決のため、サロン活動のお手伝いに力を入れていきたいと考えております。

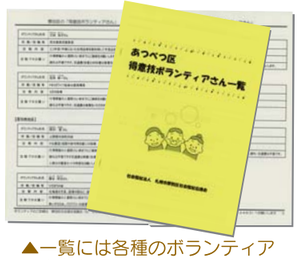
「自宅を開放してご近所のお仲間とお茶飲み会をしている」「サロン活動を始めてみたい」といったお話がありましたらぜひ本会までお問い合わせください。

▲グループ交流の様子（上）とサロン活動の課題が浮き彫りとなったアンケート（下）

地域の行事、サロン活動の手助けに活用ください
－「あつべつ区得意技ボランティアさん一覧」を作りました－

本会には、「町内会の敬老会等で出し物に協力してくださる方を紹介してほしい」、「ふれあい・いきいきサロンで手芸を教えてくれる人はいませんか」といった相談が多く寄せられます。

そこでこのたび、町内会行事やサロン活動をお手伝いしてくださる方を掲載した「あつべつ区得意技ボランティアさん一覧」を作りました。



▲一覧には各種のボランティアさんが掲載されています。

一覧では、厚別区内にお住まいの方で、マジック等の演芸披露から、紙芝居や絵本の読み聞かせ、そば打ちや手芸の指導など、様々な得意技を持ったボランティアさんを紹介しています。ボランティアさんに協力をお願いしたい場合は本会へぜひご相談ください。本会で日程等の調整をさせていただきます。

また、地域で料理や手芸といった趣味活動を教えていただくことのできるボランティアさんを随時募集していますので、皆さんからのご連絡をお待ちしています。

なお、一覧は、本会で無料配布しております。郵送を希望される方には無料でお送りしておりますので、お気軽にお問い合わせください。

きらめきの里の加藤施設長のお話によると、通園を始めたばかりの頃は静かに子どもを抱きかかえたままのお母さんも、少しずつ他の親子と情報交換をすることによって保護者同士のつながりができ、時には後輩のお母さんにアドバイスする方もいるそうです。

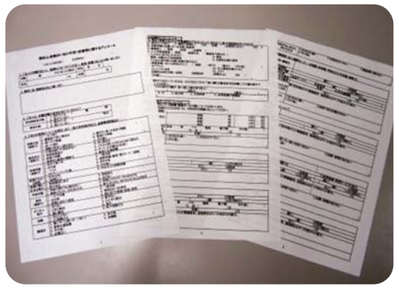
家族だけで困難を抱えるのではなく、こういった療育機関を通してのつながりによって、親子・家族のあり方が変化していくこともあるようです。

▲昼食時の様子

家族の思い～アンケートから見えてきたもの～

楡の会では昨年夏、現在在宅生活を送っている、あるいは在宅生活への移行を考えている、主に重症心身障がい児の家族を対象に、重症心身障がい児を抱える家庭の生活困難の実態を把握することを目的としたアンケート調査を実施しました。

そこから見えてきたのは、今後の生活が全く想像できない将来への不安、親が子どもの世話をできなくなったときに誰が世話してくれるだろうかという不安のほかに、急に親が子どもをみることができなくなったときに預かってくれる病院の充実への要望、そして障がい児に対する支援やサービスのみならず、障がい児のいる家族、特に幼いきょうだいを支援する視点を持ってほしいという家族の願いでした。



▲アンケートは道内の54名から回答をいただきました

地域の皆さんに知ってほしいこと

重症心身障がい児を育てる家庭には、医療的なケアへの対応、子どもの通園と家事の両立など、様々な生活困難があります。

今回のアンケートの中には、「親が障がい児と健常児を育てていると、幼稚園や学校などの行先がほとんど別々になり、しかも親は障がい児の通院や通園に一緒に行かなくてはならない」という声がありました。

私たちはこんなとき、例えば健常児のきょうだいが乗る幼稚園バスの乗場まで手をつないで一緒に行く、親に代わってゴミ出しをする、きょうだいと一緒に遊ぶなど、地域にお住まいの皆さんだからこそできるちょっとしたことがあるのではないでしょうか。

どんなに重い障がいがあっても、同じ地域の中で一緒に暮らしていくことのできる厚別区にしていくために、皆さんのちょっとしたお手伝いが求められています。